

# 光星学院(八戸) 海外展開加速

## 人材不足 比に照準



フィリピンを視察する日本企業の経営者ら(右側)。八戸学院グループが海外人材供給の仲介役になっている

### 現地に大学、高校 ▶ 卒業後日本企業へ

八戸市の学校法人・光星学院が海外展開計画を積極的に進めている。昨年12月に海外進出事業を手掛ける100%子会社「八戸学院グループ」を設立。2019年6月にはフィリピンにITや介護などの分野を学ぶ大学を開設すること、学生を育成し、日本企業に紹介することで、地域の人材不足解消に向けた「起爆剤」にしたい考えだ。(福田駿)

### IT、介護学生育成

八戸学院大の大谷真樹学長によると、19年に開設する学校は、現存するフィリピンの大学のカリキュラムなどを改組した上で、新たに開設する形をとる。IT系を中心に、介護や観光のコースなども設置する方針だという。

大学では学生約40人を選抜し、卒業後に八戸学院グループの人材育成・紹介サービス「八戸学院グローバルクラブ」に加入している企業へ就職してもらう計画だ。企業側には、学生の授業料を負担してもらう仕組みとする。

今年6月にフィリピンに開校する「八戸学院カテラル高等学校」との連動も図る。同校で日本語や日本文化を学んだ学生を現地の大学で受け入れ、10年間を通じて仕事に必要な技術や、日本で暮らすための言葉、礼儀などを身に付けてもら

行)に対応できる観光分野の人材も育てたい考え。

海外人材の育成・紹介事業について、大谷学長は「優秀な海外人材を採用したい企業が多い上、フィリピンでの視察では日本で働く意欲を持った学生もたくさんいた」と語り、現地の学生と日本企業の双方にとって有益な事業だ」との見方だ。

一方、外国人を受け入れる上で課題となるのが、日本での生活に順応するため

の環境の整備だ。大谷学長は、外国人同士がコミュニケーションを取れる場などを作る必要がある」と指

摘。「日本で共存するためには、受け入れる側も国際化を見据えた対応が必要だ」と強調する。